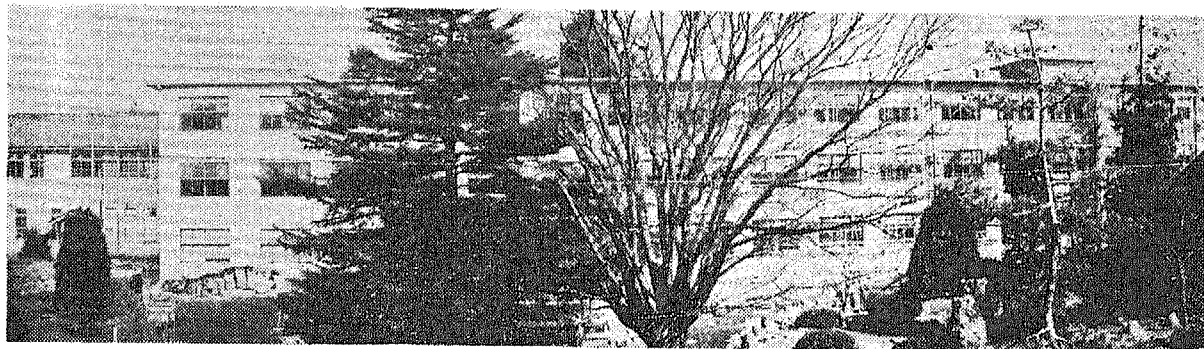


昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価1部15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL (2) 1492・2566

千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一
発行所 社団法人 千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替 長野 6243・東京 43341
電話 上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)



竣工した講義室および繊維化学工学科実験研究室

卒業生を送る言葉

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

本日本学部の第13回卒業式を挙げるにあたり多数の来賓各位と父兄の皆様のご臨席をいただきましたことは学部のことにも光榮に存ずるところでありまして、厚く御礼申しあげます。本学所定の単位を修得して本日それぞれ農学士あるいは工学士の称号を授与せられた諸君は繊維農学科23名、紡織工学科34名、繊維工業化学科34名、繊維機械学科39名、合計130名であります。本学部は昭和36年旧来の学科の名称と内容を全面的に改革いたしました。爾来満4年本日の卒業生は、いずれも改革後の最初の卒業生であります。とくに繊維機械学科はその際新設された学科でありまして、本日はその第1回卒業生を社会に送り出す運びになった次第、本学部にとって本日はいささか記念すべき日であります。

4年間の学業の功なつてこの栄えある卒業式に列席できることは卒業生諸君の喜びはいうまでもありませんが、また諸君を今日あらしめた父兄母姉の皆様のお喜びもさこそと推察いたされます。長い間ご苦労様でした。諸君の本日の栄光は、けつて諸君の力だけでなく保護者の皆様のご支えならぬご苦労によること、また社会が諸君に許した寛容の制度によることを、この際十分に心に噛みしめて欲しいと思います。

さあ4年間諸君と日常をともにしたわれわれ教職員もまた諸君の成業と社会への船出を心から祝福いたします。さて諸君はいまめいめの人生行路に大きな段階を画して学園を去ろうとしています。諸君の胸中には過ぎ去った長い学生生活を回顧し、社会への船出について展望するさまざまな感慨が去来しているであらう、この学生生活の最後の場にあたり4年間諸君と生活を共にした立場から、私は若干の感ずるところと希望を述べて諸君へのはなむけの言葉といたしたいと思ひます。現在世界の情勢、政治、経済の様相、人類の思想にひとつをとってみても甚しく無方向であり、混沌の中にもみるように私には思われます。一方には産業の躍進、科学の進歩、技術の革新があり、諸君の進もうとする世界は容易ならぬものであります。このような混沌と激動の中にあつて諸君はどのように自分をみつめ将来の進路にたいする心のよりどころを発見していこうとしておられますか、諸君は大学にあつて専門の勉強、部やサークルの活動あるいは仲間との交遊をとおして生活態度や思想形態に無意識のうちにも諸君なりの自己をつくりあげてきたであらう。しかしこの頃の大学生はひとつの傾向として、何かをやるという主体的な意欲や知的な渴望をもたない、そこからくる無為の

風と現世主義、甚しき大学を出世のための終着駅と心得ているという風な印象を一般世間から多分にもたれております。いわゆる進歩的な学生といわれるものにして、そのところは、一見立派にみえてもあるいはムードに酔い、あるいは根底に横たわる真の主張とは無関係に頭の中だけでつくりあげた虚像に依存した観念的なものではなかったか、大学はなんといつても一般社会からはかけ離れた特別な存在であります。

そこで考えること、云うこと、行動することにはかなりの自由があり、また社会への貢献の責任はかなり軽くなつております。大学は一種の温室であり、諸君は今まで愛情過多の家庭と、教育意識過剰の学校の中で育つてきたといわばお坊っちゃんであります。何故にこのような特別な生き方が許されるのか、いうまでもなくそれは世間が諸君に期待するものがあるからであります。日本はいまあらゆる分野で若い人のたくましい新鮮なエネルギーを求めています。産業界にしても、生産手段の変化と国際競争の激化をとおしてひしひしと迫る技術革新の波をまともに受けとめてゆかねばならず、過去の経験や積重ねだけに依存した時代は過ぎ去つております。ともすれば伝承の世界にのみ生きようとする産業界には新風を吹きこむ必要が痛感されます。諸君は好むと好まざるにかかわらず、このような動きと期待の中に、技術者の卵として身を投じてゆかねばならず、やがては指導者としての道を歩かねばならぬのであります。社会が求めている新鮮さは無内容の見せかけのものではありません。要求されるものは学生時代のような安易なものでも空虚なものでもなく真剣なものであります。その上に諸君が巣立つてゆく社会は今までは異つた複雑な人間の集団であります。いろいろな要因が常にかみあい互に影響しあつて諸君に働きかけてくる場合によっては人間らしい呼吸のできないような所も、また自分の人間性防衛のために消耗してゆくような職場もありましょう。諸君は苦しまねばなりません。今までの生活が世間の風波から遮断された温室の中であればあるほどまた世間の期待が大きければ大きいほど苦しまねばならない、それは当然のことです。けれども諸君は、諸君の青春が限りない可能性を含むことを忘れてはいけません。諸君は夢をもつことができ若きが故にその夢を実現する可能性を無限に具えています。このために諸君は一人であつて一人で努力し、きたえられねばなりません。さもないと可能性は死んでしまひます。諸君はこのことをよく認識し広い視野と深い洞察に基づ

いて自ら事態を判断し、自ら処理推進してゆく態度と、言葉の概念としてではなく、身をもって実行する決意を、スタートラインの時点からもっと欲しいのであります。世の中には卒業して2、3年たつと凡俗常識化して、あたかも社交や遊び上手だけが地位向上に結びつくとしかみえないような人も多くおります。しかし私は精神や肉体をきたえることは人間の古い伝統の中にある調和的な人間像に近づく道であると確信します。今は人間像がバラバラになっております。苦しい思いを恐れず常に自信をもって自分を一步一步前進させてゆくとする意識と実践、この決意をもってこそ、いかなる職場にあっても、混迷の社会の中にあっても心の平静と、人間であることの統一が保たれると考えます。努力するものには矛盾も迷いもありましようが、苦勞の末到達した山の頂きには、誰のためにも広い展望がひらけ、人間らしい歓喜があります。われわれのいくたの先輩は身をもってこのことを実証

してしてくれます。私は諸君が諸君の道を身も心も一体となつて、ジッヘルに進んでいってくれることを心からお願いいたします。

最後に一言します。諸君は社会に出てからも、ひまをみつければ時々学校を訪れて欲しいと思います。母校には諸君が社会でどのように自分の道を歩んでいるか、諸君がどのように成長しているかを常に気にかけている先生が多いのであります。諸君から社会でのありようを聞くことは、この上もない楽しみであり、またそれらは学校の教育のあり方についての反省の資料にもなりましよう。また時には先生達に諸君の人生進路の相談相手になることもありましよう。諸君はきれいな信州の空気の中で伸びるために4年間の蓄積をした、その縁をも思い出してこの後とも学校との結びつきを忘れないで欲しいと思います。終りに臨み諸君の自愛を心から祈念いたします。

信州大学繊維学部

第13回卒業式挙行

信州大学繊維学部第13回卒業式は3月10日午前10時より母校講堂において厳粛盛大に挙行された。土屋事務長の開式のことば、小泉学部長の式辞卒業生を送ることばが(本誌掲載のとおり)あり、三村信州大学長から卒業生130名にそれぞれ証書が授与された。つづいて三村学長の告辞、愛知撰一文部大臣の祝辞(教育学部長溝口亮一氏代読)を始め来賓祝辞は長野県知事西沢権一郎氏(上小地方事務所長市川信治氏代読)、上田市長小山一平氏、および千曲会を代表して香山清和理事が祝詞を述べた。在校生総代土田義昭君の送辞、卒業生総代伊奈勉君の答辞があり、一同螢の光を合唱して土屋事務長の閉式のことばによって11時半終了した。

第13回卒業生

繊維工学科(23名)

氏名	就職先	住所
青森 錦二	片倉工業 KK	東京都中央区京橋3の2
吾妻 直	長野県庁	片倉工業八王子研究所 小県郡丸子町八日町
大久保純夫	群馬県糸製造 KK	群馬県高崎市八島町115
大谷 義憲	大学院進学予定	
奥田 紀之	京都府公務員	京都府中郡峰山町 京都府織物試験場
川島 信二	信州大学繊維学部 大学院	長野県上田市常入500
木村 公郎	東洋整絨 KK	名古屋市北区中丸町1の2
倉田勇太郎	東洋サイジング KK	伊勢崎市長沼本郷831
佐藤 孝	千葉水道局	千葉県松戸市栗山46 県水道局栗山浄水場
清水千恵子	大学院進学予定	
鈴木 規久	昭和化学工業 KK	東京都葛飾区青戸町2丁目 1873
高橋 武文	吉田工業 KK	東京都千代田区神田和泉町 1
土橋正三郎	東洋繊維 KK	東京都千代田区丸の内 2の18
仲井 範治	浜口染工 KK	京都市南区東九条柳下町2
中村 泰輝	宮入菌剤研究所	長野県埴科郡戸倉町
丹羽 基治	愛知県蚕業試験場	愛知県江南市大字木賀
速水 克正	蘇東興業 KK	愛知県尾西市三条 字大道南15

村上 彰 三共生興 KK 東京都中央区日本橋人形町
3の3

村本 茂樹 大学院進学予定
山本満寿夫 日本製麻 KK 神戸市荏合区北本町通
3の5の1

小城 勝彦 茨城県庁
土屋 光男 西武国土計画興業
KK 東京都渋谷区穂田3の191

吉岡 篤行 昭和紡績 KK 京都市左京区高野西開町36
紡織工学科(34)

県 勇次 大東紡織 KK 東京都中央区日本橋蛸蛸町
2の16

足立 貞夫 遠州製作所 KK 静岡県浜名郡可美村高塚
4889

ハミド・ 大学院進学
エムボ

池田 嘉邦 昭栄製糸 KK 東京都千代田区神田駿河台
3の1

榎本 誠治 伊藤忠商事 KK 大阪市東区本町2の36

大田 晴彦 帝国産業 KK 大阪市北区中之島2丁目18

大前 保夫 住江織物 KK 大阪市住吉区墨江2の18

沖田 順子 後藤鍛工 大阪市西淀川区野室西
3の284

門脇 弘志 日本レイヨン KK 大阪市淀川区中津本通
1の2

久保田雄三 片倉ハドソン KK 東京都中央区京橋3の2

小池 芳子 農林省蚕糸試験場 東京都杉並区高円寺2の104

河野 貴一 豊田中央研究所 愛知県刈谷市豊田町2の1

斎藤 磯雄 東洋レイヨン KK 東京都中央区日本橋室町
2の2(東レビル)

坂根 勝史 東洋ナイロン燃糸
KK 東京都中央区日本橋室町
2の1の1

酒匂 景一 日本ビニロン KK 東京都中央区京橋3の2

鈴木 武彦 三菱レイヨン KK 東京都中央区京橋2丁目8

住 都 洛陽高校

田中 肇 呉羽紡績 KK 大阪市東区本町2の28

寺島 秀幸 呉羽紡績 KK 大阪市東区本町2の28

富田 紘二 プリンズ自動車
工業 KK 東京都杉並区宿町88

中村 和男 大学院進学

中村 克彦 長野県公務員

中山コノエ 栄工業 KK 兵庫県尼崎市常吉字北新田
1の3

西山 聡 川島織物 KK 京都市上京区東堀川1条

上ル
星合 文隆 旭化成工業 KK 大阪市北区堂島浜通1丁目
25の1 (新大阪ビル)
松下 勉 神栄生糸 KK 神戸市生田区中山手通
2丁目108
宮島 国至 都築紡績 KK 愛知県知多郡阿久比町大字
植大字中郷
山内 晃 岩井産業 KK 東京都中央区日本橋江戸橋
3の6
渡辺 真澄 敷島紡績 KK 大阪市東区備後町4丁目34
佐藤 求 長岡高等学校 新潟県長岡市
瀧額 利弘 民成紡績 KK 名古屋市中区菅原町2の11
鈴木 貫一 大沢製作所
堀込 英明 杉本練染 KK 京都市左京区高野蓼原町1
森田福吉郎
繊維工業化学科 (34名)
青木三千夫 花王石ケン KK 東京都中央区日本橋馬喰町
2の1
池田 啓作 東洋ナイロン燃糸 東京都日本橋室町2の1の1
加工 KK
伊奈 勉 郡是製糸 KK 京都府綾部市青野町
井本友三久 大学院進学
上原 勝 三菱レイヨン KK 東京都中央区京橋2の8
内田 慎治 東邦レーヨン KK 東京都中央区日本橋通3の6
大木 和史 大和紡績 KK 大阪市東区南久太郎町
4の25の1
緒方 昌子 東洋整絨 KK 名古屋市北区中丸町1の1
香山 博 日本レイヨン KK 大阪市大淀区中津本通1の2
唐沢 裕子 大阪府立 大阪府泉大津市旭町102
工業試験所
北村 稔 大学院進学
熊谷 洸 厚木ナイロン KK 東京都中央区日本橋8
古藤 紀雄 堀田産業 KK 栃木県足利市助戸仲町500
小林かほる 東京都 東京都八王子市明神町596
繊維工業試験場
新海 栄 特許庁 東京都千代田区三年町1
瀬戸 絃一 東洋紡績 KK 大阪市北堂島浜通2の8
土屋 正 呉羽化学 KK 東京都中央区日本橋富沢町
10の14
戸叶 弘 日本化薬 KK 東京都千代田区丸の内1の6
永治 辰也 東洋繊維 KK 東京都千代田区丸ノ内
2の18内外ビル
西尾 豊 日綿実業 KK 大阪市北区中之島2の15
西村 絃紀 東洋レーヨン KK 東京都中央区日本橋室町
2の2
長谷 実 大学院進学
林 隆男 富士写真フイルム KK 東京都中央区銀座西2の13
KK
平川 清一 大学院進学
平林 重信 東洋化学 KK 神奈川県鎌倉市台79
布施 正孝 大学院進学予定
松井 亮一 大学院進学
三隅 忠彦 東洋綿花 KK 大阪市東区高麗橋3の1
宮沢 登 長野日本無線 KK 長野市西鶴賀
森岡 光 住江織物 KK 大阪市南区安寺橋4の55
森山文一郎 竹本油脂 KK 蒲郡市小江町藤の木31の1
山岸哲太郎 艶金興業 KK 愛知県尾西市小信中島
山本 宏 明成商会 KK 京都市下京区西七条北輪町
37

結城 惟行 旭化成工業 KK 大阪市北区堂島浜通1の25
繊維機械学科 (39名)
青木 邦照 住友ベークライト KK 東京都千代田区内幸町
2の1の3
青山 尚生 豊興工業 KK 愛知県岡崎市鉢地町字開山
44
朝倉 進 呉羽紡績 KK 大阪市東区木町2の28
浅沼 紘 KK 津上製作所 東京都港区芝田村町4の1
五十嵐 実 日野自動車工業 KK 東京都中央区日本橋通2の4
石橋 武 日本エクスラン 大阪市北区堂島浜通
工業 KK 1の25の1
伊東 克章 日本スピンドル 兵庫県尼崎市潮江西
製造 KK ソウケ2の1
大井 英資 大学院進学
大宮 昭博 KK 呉造船所 呉市昭和通2の1
大屋 正明 通産省 埼玉県川口市寿町188
資源技術試験所
荻久保新吾 東洋繊維 KK 東京都千代田区丸の内
2の18
加藤 尚 帝国ピストン 東京都中央区八重洲3の7
リング KK
小林 優 片倉ハドソン KK 東京都中央区京橋3の2
佐野 寛 ブラザー工業 KK 名古屋市瑞穂区堀田通
9の35
三分一義夫 東洋紡績 KK 大阪市北区堂島浜通2の8
鎮 八郎 自営 奈良県天理市樺本町943
菅沼 勝利 郡是製糸 KK 大阪市北区梅田2
杉本 作蔵 帝人 KK 東京都千代田区内幸町
2の22
高島 俊夫 東洋化学 KK 神奈川県鎌倉市台79
高杉 茂生 三菱樹脂 KK 東京都千代田区丸の内
2の12
田幸 淳子 埼玉県、高校教員
知野 国夫 川島紡績 KK 岐阜市都通り5の15
永井 正昭 横浜ゴム KK 東京都港区芝田村町5の9
鳴海 聡 富士紡績 KK 東京都中央区日本橋本町
2の1
西田 直温 村田機械 KK 京都市南区吉祥院落合町103
納田 利行 京都機械 KK 京都市南区吉祥院船戸町50
野村 竜一 敷島紡績 KK 大阪市東区備後町4の34
秦 良康 東邦レーヨン KK 東京都中央区日本橋通3の6
深沢 捷男 呉羽自動車工業 KK 富山市中市10
富士谷 武 岩井産業 KK 東京都中央区日本橋江戸橋
3の6
法橋 侯博 自営 大阪府和泉町内田町6の7
牧 武司 東洋レーヨン KK 東京都中央区日本橋室町
2の2
松原 隆生 日本オイルシール 東京都中央区日本橋室町
工業 KK 2の4
丸山 克彦 ニチボロ KK 大阪市東区安土町2の30
丸山 常 信越化学工業 KK 東京都千代田丸の内1の2
村沢 正紀 興国人絹パルプ KK 東京都港区芝田村町1の1
山本真名夫 大和紡績 KK 大阪市東区南久太郎町
4の25
横関 晴弘 日精樹脂工業 KK 長野県坂城町
吉永 健一 大学院進学

一般教育の統合問題について

千曲会員のみなさんへ

贊助會員 小柴 善一郎

大変おそきにすぎましたけれど、ほんの一言このスペースをお借りできて感謝致します。同窓会として母校の将来を憂うみなさんの志の集るところ一般教育の統合反対、単科大学推進という方向が打ち出され、勢い余って学部自治と矛盾した結果も生じました。そうした運動の根底には確たる統一方針を首尾よくまとめることに成功しなかった学部内の不安定さを見るに見かねてということもあったろうと想像されます。何はともあれ、ここではこうした非常に根強い(?)単科ムードなるものに疑問と推考の一端を述べさせていただきたいと思います。

私は3年前にこの上田の地に赴任しました。お話を伺うとずっと以前からそうなのですが単科ムードはどうしていつまでもムードたり得るかという疑問が先づ生じます。具体的に申しますと、単科大学の特色は何で、それは将来計画の中でどのように実現し得るか？更に問題を整理しますと、①どういう学部と学科とから成立つか、②教育の構成や他大学との関係、とくに既存信州大学との関係、③一般教育はどのように充実させてゆくか、④学界の流れや業界の動きに既応できるには、⑤立地条件は成立するか、それは文教政策の方向とにらみ合わせて年次計画の中へ組み入れることが可能か、まあそう云うことに尽きますと思いますが、要するに構造的にも教育体系論的にも更に立地条件論的にも殆んど見るべき研究がないのは一体どういうわけなのでしょう。か？。

私の見る所こうした単科論ではない単科ムードは、ここ数年来のことならともかくも、内容的に責任のある実体があり得よう筈がなく、実際は一種の同族意識であり、50年の伝統とその特殊性を強調しなければ立て行けないと思う意識だということです。更にこの特殊性への意識過剰は現代の主要な一般性(一般的諸問題)からの敬遠気分と表裏一体になっているのではありませんか。一人一人の千曲会がまさにそのように考えて居るといふことより全体としての統計的バランスがそういう意識への傾向を持って居ると云えましょう。同窓会とは本来そういうものであり、それでいいのだそうです、私もそんなふうに思います。ふだんならそれでも格別差支えはないでしょう。けれども今述べた教育環境をとりくも或は研究や教育の諸条件を左右する現代の主要な一般的諸要素(政府の科学技術政策・大学行政の劃一化・技術革新・戦後アカデミズムの再編成等々)への留意・評価に立って全国の何れの大学でも、私は過言でないと思うが、世界のすべての大学がぶつかっている一般的諸問題にこそ実践的努力を傾注すべき時だと思います。一般教育が今日非常に大事だということもこういう問題の一つです。詳察は省きますが、科学技術の現代史・未来史という一つの側面からも、このことの重要性はもつともつと強調されなければならないのです。誤解をさけるために念のため申したいのですが、私は特殊性の放棄を主張しているのではありません。特殊性よりも一般性を強調しなければならない、そういうのが今日の大学教育の課題だということです。今日までならその反対でもよかったと云い切ることはむづかしいですが、それでも特に大きな矛盾を生まなかったことはたしかです。また私が一般教育の所屬だからそういうわけではありません。理想としてはどのような専門家でも大学教師である限り一般教育を担当している

体制がのぞましいでしょう。蚕糸や紡織や農学はどんな面で将来性があるか、その学問的位置付け・就職問題の見通し・後進の指導養成方針等ととも内容的に討論を深め必要ならば学部の特をこえて努力すべきです。特殊な問題の解決方法は、何が何でも学部のためというようなせまじローカルナショナルリズムでなく、日本の大学の多くのまじめな研究者・教育者たちが向っている開放的な方向に合わせねばなりません。

最後に2つ、先ずはじめに今問題になっている一般教育の統合はどんなことになっているのでしょうか。みなさんは千曲会の立場で、私は私の立場で、それぞれ異った立場からの関心事ではありますが現状は決して賛意を与えられる姿ではありません。私はいわゆる統合派と目されるものの一人として本当にいいものを作ろうとして学部の手をこえて出来るかぎりの協力を試みました。みなさんはそんな努力はやつても無駄なんだということが始めから分っておられたまじか？。私の場合は、まだ赴任してから歴史が浅いためかそういうわけには参りませんでした。一方このままの一般教育でいいのかと云えば、それは又それで問題で、正直に言ってどちらがいいのか迷わざるを得ないというのが、いわゆる統合派の中の一人一人の腹中ではないでしょうか。統合派とは誰が名付けたか便利でもあり、無内容でもありいかにも千曲会産発想らしい定義づけであります。「何もしないものは何もあやまりを犯さなさい」。どこかの国の諺を借りていうならば私遣は実践派で、だからまたあやまりを犯してるやも知れずその点でいろいろな御批判もあろうかと思います。

あとの方の問題は、一体一般教育を統合するにせよ、しないにせよ、繊維学部はどうなるだろうかということです。私は単科が成立するのはその中味は問わないことにして、早くてももう4、5年かはかかると思います。現在の大学行政の特徴として割一化・統廃合の方向が出ておりますが、やがて大学制度が年限の上で問題にされる時期がやってくる。その実施時期は今の政策のフィードバックとして、現われるでしょう。単科の成立条件も一つのフィードバックとして、そのときには文教政策面から支えられるだろうと思うのです。このことは単科論にとっては安心している要素かも知れません。

けれどももっと重大なことは、そういう話よりも先に学部統廃合の王手がかかって来るだろうということを予想しておかなければなりません。どうかこういう不吉な(?) 予想を立てたからと云って“不敬罪”をかぶせないで下さい。運命共同体に縛られずに自由に考える空気が大切です。もっとも可能性があると思われるのは、こういった王手が一つの契機となつて或部分は工学部との統合、他の部分は繊維の特色を生かした単科へと分れることです。

以上は云うまでもなく一つの推察です。この推察が当たらないという絶対のきめ手があるでしょうか。私個人の関心事なら、そんなことは当ても当らなくてもどうでもいいことですが、同窓会としては母校の発展とはどういう意味なのか、これは一つの問題提起としてお考えになっていただいたらと思います。

(筆者信州大学助教授一般教育数学研究室)

(昭和40.3.25)

故小中潔君(10)を悼む

服 部 虎 雄 (紡2)

去る3月26日名古屋市立東山病院にて脳軟化症で急逝した小中潔君の葬儀は3月28日午後1時より名古屋市千種区南明町の自宅で、いとも盛大に執行された。齢65才であるから決して若死とはいえないが、しかし未だ未だ10年は生き貫くと、本人も、周囲も思い込んでいたので、余りにも突然の死去で心からビックリした。

ここ3年程前から同期卒業生で在名の古川俊之君(蚤10)私(紡2)の3人は特別親密に交際していた。大体は新興財閥といっても過言でない海産物製造販売業である金城軒の社長。小中君宅で2月に1度位の割で相会し、よもやまの雑談をしたり、碁をやって半日位宛遊んだものだ。外にゴルフの練習をしたり、ミカドへ入ったり、朝日会館8階の高級クラブへ案内しオゴツて貰ったこともあった。我々サラリーマンから見れば王侯の生活をしているように思った。だから普通でけ行けそうも無い処へ小中君の好意で出入したのも、つい昨日のような気がする。真にサツパリしたい男であった。しかしここ約半年前から軽い中風に罹って入院し、良くなったので退院したので2、3回はお邪魔したことがある。僕と古川君の碁を見て嬉んでいた顔が今でもクッキリと目の前に浮んでくる。小中君は上田蚤専在学中は庭球部選手として活躍した程で、単に金儲の天才であるのみならず、スポーツ神経も人並優れて発達していた。各処のカントリークラブでゴルフ大会に出場して入賞したカップなど数個飾ってあるほどであった。自分の工場にもゴルフ練習場を作り従業員に奨励していた位スポーツ熱も老いて益々旺盛であった。誰がどう見ても3人の中では小中君が一番丈夫そうで若く見え、元気で全国を股に掛けて東奔西走していたので、1番長く生きる

ものと思い込んでいた。僕などは胃潰瘍で胃を全部切除してしまつてギニャギニャしていたので元氣の小中君に逢う毎に羨しく思った位であった。その病身の僕が生き残り、頑健そのもののような小中君が先にあの世へ行ってしまったとは、ホントに信じられない位である。「ニヤラ100年」と昔から云うが、古川君や僕は正にその口である。又「無病息災」でなく「一病息災」なりとテレビドクターである近藤博士がブラウン管を通して耳にタコのあたる程何回か聞いたが、小中君は「無病早死」の見本のようなものとも云える。

金は貯たし、子供は大きいし、実弟もすぐ隣に居り同じ仕事をしていたので、あとの仕事の方は何も心残りはないと思う。小中君は小成功者であったと云える。我々サラリーマンから比較すれば殿様と足輕位の相違はあった。が寿命だけは如何ともし難く、好漢もついに帰らぬ人となつてしまった。真に淋しい限りである。

尾藤君(蚤10)中村君(蚤10)の両君も、年に一度位は小中君の処へ来ていたようであった。而し会葬は僕と古川君の2人だけであった。余りにも急すぎて連絡が取れなかったのだ。仲よし3人グループの1人が欠けてしまつて残念至極であるが、考え様によっては我々2人は金は無くとも寿命があるだけ幸と云える。いつまで生きていても、そういい事も無さそうだが、しかし死んでしまつては万事終りだ。僕は99まで生きる目標のもとにアジャール事をしている。しかも単に生存しているのみで無くて応分の仕事をし(私立高校教諭)仕事を通して社会公共の為に尽したい覚悟である。私が白寿会(99才)に入会したのも養生の一つである。

小中君よ安らかに寝れ、生き残った我等は君の分まで働くつもりだ。

所感の一端を述べて小中潔君哀悼の辞とする。

(3月29日)

さ ろ ん

白い大陸「南極ノ石」

幾億年南極のナゾを秘めて眠れる小石

＜鳥居越冬隊長

最近持ち帰られた宇宙の奇石＞

静岡戸倉八峰

5年も前から念願を続けて来た待望の賜物「南極の白石」入手の喜びと、その由来のイキサツを添記して、鳥居鉄也博士の御好意に感謝の意を表するため、敢て拙文を綴る次第である。



私の次姉黒田てい(73才)と、鳥居正さんは明治の末葉、旧制静岡県立静岡高等女学校の仲のよい同級生でした。

又その当時私は旧制掛川中学校5年生でしたが、上級学校国立上田蚤専へ入学のため、ひと勉強せんものと5年生の

1年を掛中正門前掛中教諭鈴木正練老先生私宅の2丈の玄関番に置いて貰って寄食したのも、姉のクラスメートの因縁から承諾を得たもの。

其後鈴木正さんは現在袋井市山梨町の出身農学士鳥居信平氏に嫁して、任地台湾に赴任、某製糖会社に勤務、昇級して取締役に進進、終戦前退職帰国後他界された由です。

因みに附記するが糸2回の亡鈴木練一愛称「練坊」は正さんの令兄です。

今から5年前鳥居正さんと50年振りに東京新宿の住所を知り、正子未亡人に息子の鳥居南極越冬隊長に「南極の小石」を頂きたいと依頼したのでしたが、本年迄3ヶ年昭和基地観測が中止となつたので万策尽き、施す術もなかった。

然るに昨年12月米国の好意と協力に依り米南極基地マクマードを経て飛行機で昭和基地の見学、調査、研究のため鳥居博士外3人の調査隊が派遣された事はラジオ、テレビで報道された通りです。而して未知の大陸、アザラン、愛嬌物のペンギン、空の盗鳥カモメなど数種の動物の外、巨大な氷河、海拔3,000メートルの平原、1,300万平方メートルとか巨大な「白い陸地には未解明の夢とナゾ等数々の宝物研究課題が静かに眠っている。探險家の先覚者ノルウェーのアムンゼン

は同志4人とあえなく命を断ち1917年スコットも亦効績をあげず、大死をした。今やレイ明期を迎えて「変りゆき白い大陸」の時代は来たのである。この科学のメスを持つチャンピオンは続々と現れてアムンゼンやスコットの後継者を以て任ずるであろう。

さて話を本道に戻して鳥居博士は帰国の際只1つ丈、私のために持ち帰られ、2月中旬突然母正さんから送り届けられた、この「宝石」—＜珍石世界—＞を誇称するのにやぶさかでない。

敢えて添書を付して「写真」で御目に掛けるのも光榮である。

日本学術会議南極特別委員会幹事
財団法人日本極北研究センター設立事務所
理事 鳥居鉄也

理学博士 鳥居鉄也
粗 品

永らくお待ちいただきし石御送り申し上げます。昭和39年12月23日、米南極基地に行きめずらしい石持ち帰り今朝私うけとり、すぐ小包にし送りしました白石の中にピカピカ何か光っていますめずらしい石です。アメリカ基地マクマードという所のものです。2月16日まずは右まで 母 正

さて話を後段の結びに入る。

袋井市出身の川村驥山老と相並んでの南極研究の権威者オールマイティー、若き科学者（主に水質、雪質等の研究学者）今後数しれぬ幾多の南極の眠れる神秘の開発を期待される。ウルトラC級の特種の人土、理博島居鉄也殿も亦袋井市出身、ここにも何か深き因縁ある青年学究、故に袋井市名誉市民に推挙するに十二分のウェイトありと深く信ずるので市民各位の理解と御賛成を得たく、ここに筆を改めて所信を披瀝する所以である。

(40-3-22稿)

先輩へ後輩へ

—愚言御免—

斎藤義臣(蚕32)

世の中には「与えて求めず」という聖人も居ようが、近代社会で生存する人々の中には、それ程の余裕をもった人が少なく、ほとんどの人は、経済的に反対に給付を求めなければ生活できなくなっている。

わが千曲会も、その同窓愛とか母校愛という、古き少なき時代の夢に郷愁を覚えていられる大先輩も数多くおられるようです。

その反面近代的な、あまりにも余裕のない若い層が、給付なき供出を、うちに秘める打算が許せず、逃げようとしている姿も見がせない。

私は、両者が余りにも深刻すぎると思う。もっと軽い気持ちで、互に同じ学校に学んだ親しみを以て接することによって、

大先輩は、後輩の非情を憂える前に、戦争当時の自己の取った態度、敗戦後の混乱期における行動が、どれだけ日本の社会のためになったかを反省してもらいたい。技術屋だったから社会性が乏しかったので……と弁解は聞きたくない。

戦前において専門学校を出た人は、少なくとも社会の指導者であったはずである。不幸にして、その認識がなかったとしたら、余りにも自己保善に時を空費した守銭奴に過ぎなかったといえよう。

後輩は自己の榮利榮達のために、全てを犠牲にすることの如何に馬鹿げたことかを、1日も早く悟ることである。山の中で自給自足をしている原始の時代なら兎も角、今日においては、互惠という意味を忘れては社会生活はできないはずである。

会社の自分の上役に点数を挙げることに窮々としたからといって、それがどれだけ結果をもたらすだろう。他人を引き落してまで出世したからといって、それが長つづきしょうか。

此の頃よく耳にすることだが、自分の子供を出世させようとして、また自分の社会における敗惨の仇を子供に取らせようとして、むやみに勉強をさせ、社会性のないコチコチの補助を造りあげているこんな人造人間に何ができよう。

自分の子供さえよければ、他人の子はどうでもよい。否他人の子供は落第して自分の子供がパスすればよいということのみに追われている。自分の子供が出世した頃に、他人の悪い子供に殺されるかも知れないことを忘れていないか。

この狭い社会で、わずか70年の受持ち時間を与えられ、バトンを次代に渡してゆく、そして自分の顔を知らない子孫はそんな祖先がいたのかという位で終わってしまうのだ。せめて命ある間に「俺は生きた」と味わえるような生き方をしたいものである。

大先輩の皆様、儲けたら、その一部を社会奉仕に供出すると共に、千曲会へも寄付して下さい。われわれは、それを有難く頂戴し、先輩に負けないように努力いたします。

後輩の皆さん、社会が如何に複雑になろうとも、人間性を失わない「ゆとりある人生」を歩みましょう。

支会だより

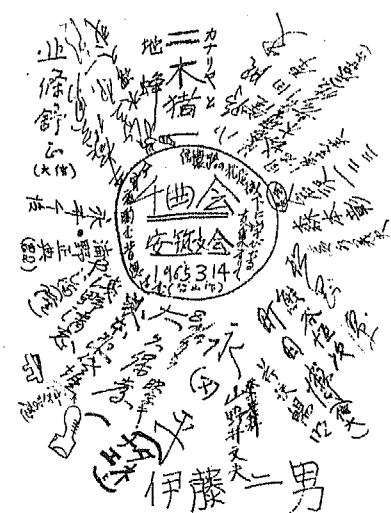
安筑支会定期総会報告

3月14日(日)午後1時から恒例の支会総会を、国宝松本城を眼下に見おろし遠く北アルプスの連峰を、一望に眺められるという風光明媚の地、湯之原温泉の呉羽荘を呉羽紡績の伊藤工場長(紡17)の特別の計らいで、全館を貸切ってという豪勢の下に、本部からは町田理事、北条理事の両先生をお迎えして近年になく盛大に開催された。

現在支会会員は120名にも及び、会社、官公庁、教職自営と又方面の一線で活躍しているが丁度年度末の多忙時であったにも拘らず、遠く大町市、塩尻市、豊科町からも多数御出席があり、母校50有余年の歴史を物語るかのように大先輩の永田平氏、二本猪一氏(蚕8)から昨年卒業の小島克英氏(学織12)まで23名の出席があった。ただ出席予定者の中で当日になってから、突然都合によって数名の方々が出席できなくなったこと、高校の先生が入試の採点で欠席されたことが、かえりかえり残念であった。

まず支会長の蚕糸試験場・中部支場、浅野清志氏(蚕15)から支会の現状や抱負等について御挨拶があったあと、議事に入り1年間の会務報告、会計報告、会計監査報告がなされたが万場一致承認された。このあと町田先生からは千曲会の

現状と方針についてお話しがあったが、この中で総会出席率や会費納入等が地元支会ほど良くないという御指摘を頂き一同、心から反省し今後万事を尽くしてこれが改善に努力することを誓い合った。また北条先生からは学部の発展の様子や教養部統合の問題等について御意見があったが、その中で地球のある限り上田の歴史と伝統は永遠に変わらないという言葉は、母校の進むべき道を明示したものであるとして心に深く刻まれた。最近若い卒業生の中には、ややもすると千曲会に無関心なものがあるが、社会は上田の卒業生はすべて上田のレッテルを貼って、みつめていることを私達は常に忘れてはならないと、つくづく感じた。



本年はまた支会の役員改選期に当り運籌委員会を設けて運籌の結果、現役員の方を多とし新しい発展のために次の新役員が選出された。

支会長 倉沢一二三(蚕17)

片倉蚕業研究所長

副会長 伊藤 二男(紡17)

呉羽紡績豊科工場長

副会長 加藤秀次郎(化1)

松本精練KK、専務

幹事長 窪田 厚(学蚕2)

片倉蚕業研究所

監事 森本 彰(蚕27)

蚕糸試験場中部支場

監事 堀米 吉美(糸25)

長野県繊維工業試験場

その後直ちに宴席に入ったが伊藤工場長始め各先輩の恵志厚く宴会としては、質、量ともに他に例をみない立派なものであった。会の始めに自己紹介をしたが夫々個性を生かしてスピーチは1人5分間にも及ぶという長時間にも拘らず、終始感銘と感嘆の連続であった。寄書を始めた頃には宴も頂点に達し、自営の方々は多額の広告料を出して宣伝に務め、若

い者は上司を、つかまえてこの時とばかりやりこめる光景は千曲会ならではの気分を盛り立て、散会する時はすでに10時を過ぎた。帰途についた私は、しみじみと千曲会は参加することに意義があることを体細胞を通して改めて感じた。

最後になりましたが3年間幹事長の大役を果たしてくれた支会の皆様方の御指導と御協力に対しまして心からお礼申し上げます。(水沢久成)

山梨支会総会記

富士嶺の雪斑らなり春を知る——

春分も間近かい3月13日甲府市内柴王苑に於いて、39年度山梨支会の総会が開催された。

生憎鶴田定平会長(蚕1)が突然の御都合で出席されなかったのは、まことに残念だったが、県議会開会中のお忙がしい中を工面された笹本保雄氏(蚕15)、山梨支会の本因坊と名も高き石附文吾氏(蚕15)及蔵品評会表彰式で御多忙の処何をおいてもと馳せ参じていただいた久保田不二夫氏(蚕23)等先輩諸氏の出席が得られ、総会も終始和気満々の中で進められた。

一般会計報告、千曲会費納入状況及び会員の動勢等の説明が更級(化4)、島田(農2)よりあり、又飯田(蚕32)より千曲会費値上に伴う納入方法についての

発言があったが、何れも大した問題もなく承認及び決定された。

尚今回の総会は生憎高校の入試日と重なり、教職にある会員の出席が不可能となったりで、やや期日の選定がまづかったが、本年秋季全員出席を期して盛大な臨時総会をブドウと温泉の町にして名声を高めつつある石和町で開催することに出席者全員の賛同が得られた。

会員総数29名と比較的少い山梨支会ではあるが、若い人が多く意気軒昂で山梨支会健在なりと申し上げたい。

最後に母校及千曲会の一層の発展を御祈りする次第である。

尚当日の出席者は次の通り

笹本保雄(蚕15)、石附文吾(蚕15)、久保田不二夫(蚕23)、飯田九十九(蚕32)、更級乙男(化4)、徳永雄治(農2)、島田昭郎(農2)、長谷川悟史(蚕別1)、堀岳人(蚕37)、根本剛(学糸1)、米山光郎(蚕別7)

昭和40年3月24日(徳永記)

三重支会総会記

支会便りは支会員から寄せられるのが立前であり、実感がこもり、その会の様子が興味深く他支会員に受けとられるのであって、よそ者が書くのは支会便りの主旨にも反するのであるが、3月7日に開催された三重支会の便りを待った会報

1965.3.7 三重支会総会
大津市栗洞温泉
出席者
久保田 不二夫
飯田 九十九
更級 乙男
徳永 雄治
島田 昭郎
長谷川 悟史
堀 岳人
根本 剛
米山 光郎

編集部の求めで、招かれて出向いた小生が代筆するハメになった。

同級の支会長鈴木正悟氏の出迎えを受けて、会場である市内の新名所磨洞温泉涼風荘に着いた時は出席者22名殆んどが集っていた。互の挨拶の後型通りの総会を終って懇親会に入る。1回卒の篠田大先輩のほかは大多数は若い人達で、磨砂を掘出した跡と云う大洞窟内の山賊料理による酒宴は浮世はなれのムードで、格別の親近さを盛り上げた。

この支会は堅実な経営を誇る亀山製糸kkの主として蚕卒生と数社の紡織工場に活躍する紡卒生が多い。帰途亀山本社に敬意を表してきたが、佐藤、白沢、金崎氏等元老のほか出席しなかった若い諸氏に会えなかったのは残念だった。(町田記)

本 会 記 事

新任理事の登記完了

第25回定期総会で決定した。①理事現行25名以内を30名以内に増員変更すること。②大学院修士課程修了者を新に会員に加えること。③昭和40年度から会費を年額500円に値上すること。の3ヶ条にわたって定款の一部変更について主管農林省に認可申請中であったが、3月11日付認可指令あり、新任理事30名の登記手続き中のところ3月24日長野地方法務局上田支局において登記完了した。

支 会 長 の 移 動

支会総会において下記支会では新支会長に次の各氏が選任された。

- 宮城支会長 山本友之丞(蚕15)
仙台市北田町51電(34)2832
- 副支会長 伊藤 力三(蚕17)
倉沢恒夫(蚕21)
- 安筑支会長 倉沢一二三(蚕17)
松本市蚕玉町
片倉工業KK蚕業研究所
- 幹事長 窪田 厚(学蚕2)
- 愛知支会長 小山田 峻(化3)
名古屋市北区光音寺町90
東洋整絨KK営業部
- 三丹支会長 細川 豊(蚕19)
京都府綾部市西町3丁目

北大坪33

神楽生糸KK研究所

支会連絡事務所が変更になった支会

- 埼玉支会 熊谷市大字熊谷701
片倉工業KK熊谷工場

連絡員久保田康夫

- 福井支会 福井市御本丸
福井県庁経済部繊維課連絡員加藤敏雄
- 山梨支会 甲府市丸の内1の6
山梨県庁商工繊維課連絡員 島田昭郎

千 曲 会 費 完 納 者

会費通算40回完納者は以後会費を免除されることになっているが、今回次の会員は40回完納会費免除になった。本会向上発展のため多大のご協力をいただいたことを感謝いたします。

- 篠田平三郎(蚕1, 三重)
- 橋本 武光(蚕7, 東京)
- 西山 市三(蚕9, 東京)
- 西本 朝平(蚕15, 山陽)
- 橋本 亘司(蚕17, 上小)
- 沓掛 久雄(蚕19, 愛知)
- 小湊 潔(糸4, 京滋)
- 中屋 正仁(糸26, 山陽)
- 江野村一雄(紡7, 山陽)

母校火災復興資金完納者

- 栃木支会 5,000円 高橋 一(蚕8)
- 小計 1名 5,000円
- 累計 1497名 3,386,474円

母 校 ニ ュ ー ス

学 内 人 事

久間秀彦助教授信州大学教授に昇任
紡織学研究室の久間秀彦助教授は3月15日付文部省発令により信州大学教授に昇任された。

昭和40年度大学院入学許可者

信州大学大学院繊維学研究所の昭和40年度入学許可者は3月18日次のとおり発表された。

- 繊維農学専攻 川島 信二(群馬県)川本 茂樹(山口県)
- 紡織工学専攻 中村 和男(富山県)
- 繊維機械学専攻 大井 英資(長野県)康 子有(韓国)
- 繊維工業化学専攻 赤川 正二(長野県)井本友三久(長野県)
- 北村 稔(兵庫県)東原 秀和(広島県)
- 長谷 実(島根県)布施 正孝(千葉県)
- 平川 清一(長野県)松井 亮一(長野県)
- 米野 肇(和歌山県)

入学式は4月13日午後2時から第1会議室で行われる。

科学教育研究室繊維学部分室修了者

3月6日第18回科学教育研究生16名の修了式が行われた。うち本会員の修了者は6名であった。

会 員 動 静

中沢 喜雄 蚕 18 上 小 長野県小県東部高等学校教頭
(長野県小県郡東部町)
芦谷 鉄郎 蚕 33 岐 卓 郡是製糸KK美濃工場(美濃
加茂市古井町上古井753)
西沢 精一 学蚕1 神奈川 横浜高等学校 横須賀市追浜
本町1の119県営住宅F23
小林 正治 学蚕3 愛 知 愛知県庁農林部蚕糸課(名古屋市中区南外城町6の1)
(住)刈谷市原崎5の41
福島 融 学蚕2 安 筑 長野県大町市俣町2054
池田美恵子 学蚕3 東 京 東京都武蔵野市関前3の812
(電0422-4・2563)
湯原 喜熙 学蚕4 群 馬 昭栄製糸KK蚕業研究所安中
出張所 安中市郷原73昭栄製
糸KK社宅
宮沢喜久男 学蚕4 上 小 勤前のとおり(住)上田市緑
ヶ丘北県営住宅345

米沢 秀術 学蚕4 北 信 中部新菱農機KK長野出張所
(住)長野県安茂里差出939
斎藤 幸雄 学蚕5 愛 知 愛知県庁農林部蚕糸課(住)
江南字飛保県松竹住宅土造18
久保田重良 学蚕5 東 京 農林省蚕糸局技術改良課
(住)東京都東村山市富士見
町1の2380第3住宅48
小泉 勝夫 学蚕7 神奈川 神奈川県蚕業試験場(神奈川
県高座郡海老名町中新田)
(住)川崎市大師川中島4
西田 勝雄 学蚕9 近 畿 光洋紡績KK奈良工場(奈良
県天理市永原町128)
吉田 治雄 学蚕11 近 畿 岡畑興産KK(大阪府南区大
宝寺町東之町62)
鈴木 教吾 糸 8 東 京 東京都練馬区向山町3の5の
8号
馬場 長市 糸 16 東 京 日東精工KK東京営業所長
(東京都品川区北品川3の207)
武蔵市吉祥寺南町3の30の6

編 集 室 よ り

彼岸がすぎても今年はまだ寒さを感じるこの頃であるが、
各業界では有望な新人を迎え、学窓では青雲の志を胸に新入
学生を迎える季節になると信濃路も開花陽春の候となる。

会員皆さんご自愛ますますご活躍発展いたされますよう切
にご期待申し上げます。

本号は小泉学部長の3月10日卒業式実社会へスタートする
卒業生へのはなむけの言葉、小柴先生の教養統合問題につい
て、および斎藤義臣、戸倉八峰両氏のご寄稿を披露し執筆を
多謝します。

編集委員 小林 尚一 竹田 寛 石川 寛 松沢 秀一
一之瀬匡典 武井 隆三 小笠原真二 篠原 房江
金井 清 白井 要範

信大教科書
自然科学書

工学書協会特約店
株式会社西沢書店
上田原町TEL②0024

特許・実用新案・意匠・商標
出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20
堤第一ビル四階
東京(591)0764・0765
弁理士 浜 香 三
弁護士 中 猪 之 助
千曲会員 福 島 鋼 治 郎

オルガン
ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社 長 増 島 芳 美


為替のご用は

はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金
口座長野3528が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店



皆様の百貨店

上田・中央

 ほていや